



紫雲児の心

恩送りで伝統を創る (始業式校長講話より)

校長 五十嵐 めぐみ

明けましておめでとうございます。新年を迎え、今年度も残すところわずかとなりました。全校生徒には、これまでを振り返り、卒業や進級に備えてほしいと願い、3学期始業式で次のような話をしました。

私は毎年、お正月にテレビで箱根駅伝を見るのを楽しみにしています。今年は、スタート直後の1区で16位だった青山学院大学が、その後どんどん順位を上げて往路優勝し、翌日の復路もずっと1位で独走して三連覇しました。往路最後の5区「山登り」を任されたのは主将の黒田朝日選手でした。先頭から3分以上遅れの5位でタスキを受けた後、圧倒的な走りでトップに立ち、区間新記録を大きく更新してゴールしました。この時、黒田選手は腕に「★7」と描いて走りました。昨年2月に病気で亡くなったチームメイトの名前「星七」のことだそうです。一緒に箱根を目指し、昨年箱根駅伝にエントリーされながら病気のため走ることができず、箱根駅伝の約1か月後に亡くなったそうです。一緒に頑張ってきた仲間の思いも背負い、黒田選手や他の青山学院大の選手は走ったのです。

一人ではできないことも、誰かに支えてもらったり仲間と一緒に頑張れば頑張れるものです。卒業や進級を前に、これまで一緒に頑張ってくれた仲間、今まで自分を支えてくれた人への感謝を、是非、形や行動で表してください。3年生は3年間、1・2年生は1年間・2年間の中学校生活だけでなく、生まれてから今までを振り返り、自分が支えてもらった人、お世話になった人を思い浮かべてください。皆さんが今まで頑張れたのは、もちろん自分が努力したからが一番ですが、それだけでなく、一緒に頑張ってくれた仲間や、支えてくれた人の存在があったからではないでしょうか。

皆さんがよく知っている「恩返し」も大事ですが、私は「恩送り」も大切にしてほしいと思います。「恩返し」は、自分が恩を受けた人に直接感謝することですが、「恩送り」は相手に直接返すのではなく、自分が受けた恩を、別の人・次の人に送ることです。先輩から優しくしてもらって嬉しかった人が、自分が先輩になった時に後輩に優しくすることも恩送りです。「恩」がその場で終わらず、次へ次へと送られていけば、それが伝統になっていきます。紫雲寺中学校の伝統も、そうやって創られてきたのです。

今年度も残りわずかです。どんな恩を、どんな風に返し、次の人たちへと送りますか？紫雲寺中の伝統を創るのは、皆さんです。皆さんが1年間のしめくくりの3学期をどう過ごすかで、今後の紫雲寺中学校が変わります。良い3学期にしましょう。

生徒一人一人が、残り少ない現学年・クラスでの日々を大切に過ごしながら新しい学年に向けた準備ができるように、3学期も、全職員が一丸となって取り組んで参ります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。